

平成22年度本部関係事業計画書
(平成22年3月19日 通常総会提出)
社団法人 化学工学会

平成22年度重点施策

～ 新たな時代を切り開く化学工学者の集結を目指して ～

1. 化学工学者の育成の強化
 - ① 社会のニーズにマッチした技術者育成の強力な推進
 - ② 技術者育成とリンクさせた資格制度の推進と社会的認知度の向上
2. 国際交流の充実
 - ① 海外特にアジア圏の化学工学会との連携強化
 - ② 産業界のアジア展開を支援する拠点作りの準備
3. 地球的課題への挑戦と提言の社会への発信
 - ① 地球の持続的発展のための課題解決を図るプロジェクトのスタート
 - ② 課題解決のプロセスデザインの社会への提言と広報
4. 学会活動の活発化と新たな場の提供
 - ① 会員にとって魅力ある支部、懇話会、部会活動の場の提供
 - ② 会員交流のための新たな小規模かつ自由闊達な意見交換の場の提供
5. ビジョン2011の仕上げとポストビジョンの策定
 - ① “ビジョン2011”の完遂のための残された課題の解決
 - ② “ポストビジョン”の策定
6. 学会事業と体制整備
 - ① 75周年記念事業の計画と実行
 - ② 公益法人認定の推進

[1] 本部事業

1. 年会・秋季大会
 - (1) 第75年会 (平成22年3月18日～20日) 鹿児島大学
 - (2) 第42回秋季大会 (平成22年9月 6日～ 8日) 同志社大学
2. 名誉会員・化学工学会賞
 - (1) 名誉会員候補者の推薦
 - (2) 化学工学会賞候補者の決定

[2] センター、CT、委員会活動

1. 地域CT
 - ・会員にとって魅力ある支部活動の検討
 - ・平成22年度地域CT賞の募集/審査

2. 部会C T
 - ・会員にとって魅力ある部会活動の推進と活性化
 - ・部会C T賞の制定と実施
 - ・設立後8年間を経過した部会の継続審査（8部会）の実施
 - ・部会H Pの継続的な更新と適切な運用の推進
 - ・経済産業省や新エネルギー・産業技術総合開発機構から公募や受託等を行うための会員への情報支援

3. 産学官連携センター
 - (1) 運営会議の活動
 - ・年会における「化学産業技術フォーラム」の開催と方法の見直し
 - ・学会の特徴を活かしたインターンシップ制度の定着
 - (2) 常置委員会の活動支援
 - 開発型企業の会、SCE・Net、グローバルテクノロジー委員会
 - 経営システム研究委員会、インターンシップ委員会

4. 情報サービスセンター
 - ・学会誌、内容の充実を検討
 - ・英文誌、電子投稿審査システムをJ-STAGE から ScholarOne Manuscripts へ変更
 - ・和文誌、ScholarOne Manuscripts を導入し、和文誌・英文誌ともに同じ投稿審査システム環境を確保
 - ・現行ホームページの検討/更新

5. 人材育成センター
 - (1) 理科教育委員会
 - ・若者の理科離れを阻止するための魅力ある理科教育の推進、底辺拡大
 - ・第12回学生発表会（文部科学省後援）
平成22年3月6日（東地区：芝浦工業大学、西地区：九州大学）
 - ・第11回関東地区中高教諭とケミカルエンジニア交流のための見学講演会
平成22年8月17日（相模原）
 - (2) 高等教育委員会
 - ・高等教育への支援、教育現場における産学連携、Accreditation 共通課題への取り組み、高等教育機関の充実につながる活動
 - ・FDアンケートの実施
 - ・デザイン教育の検討
 - (3) 教育審査委員会
 - ・平成22年度化学分野審査：本格審査、中間審査、継続審査を実施、
 - ・エンジニアリングデザイン検討
 - (4) 継続教育委員会
 - ・技術者の継続教育プログラムの企画・開発・実施
 - ・19、20年開発した43講座を随時開催（年間100日前後）
 - ・技術者による講演（座学）＋P Cを用いた演習、実習、工場見学等。
 - (5) 経営ゼミナール委員会
 - ・テーマ：「歴史的変革への挑戦」
 - ・関西（8月20・21日）、三島（10月1・2日）、東海（10月29・30日）、東京（11月26・27日）の4セッション開催。

- ・テーマに沿った講演（8件）、グループ討議（20時間）及び懇親会を実施。
- ・過去の受講者対象とした特別講演会（OB会）を実施（4年目）

(6) 資格制度運営委員会

- ・化学工学会技術者資格の制定、運営
- ・上席化学工学技士：10月2日試験予定（申込6月1日～30日）
- ・化学工学技士：11月6日試験予定（申込9月1日～30日）
- ・化学工学修習士（審査）：審査申込6月1日～7月10日
- ・化学工学修習士（認定）：JABEE認定者（化学工学コース）は随時

(7) 夢化学委員会

- ・実施事業の企画と遂行。

(8) その他

- ・教育奨励賞の選考及び表彰

6. 戦略企画センター

(1) 運営会議の活動

- ・75周年記念事業委員会の支援
- ・学会における長期戦略企画の検討、プロジェクトの設立と活動

(2) シンクタンク委員会

- ・講演会等の企画

7. 国際交流委員会

(1) 中国委員会

- ・省エネ・環境の技術協力検討

(2) 韓国委員会

- ・第23回化学工学に関する日韓シンポジウム
時期：平成22年12月（予定） 場所：日本（予定）
- ・韓国春大会での協定締結 4月21日～23日

(3) 欧米委員会

- ・A I C h E 2 0 1 0 Annual Meeting November 7-12
（開催地） Salt Lake City

(4) アセアン委員会

- ・17th Regional Symposium on Chemical Engineering (RSCE)

(5) 13th APCC h E 2 0 1 0

- ・台湾 台北 10月5日～8日

8. リエゾン委員会

- ・各種調査等への協力

9. 表彰委員会

- ・平成22年度化学工学会賞候補者の審査

10. 男女共同参画委員会

- ・第75年会で講演会「うちの取組 in 九州」を企画。
- ・男女共同参画のネットワーク作りのため、年会及び秋季大会での交流会を企画。
- ・「女子学生のためのイブニングセミナー」を第42回秋季大会および東京（第8回）で企画。

- ・各社の男女共同参画の特徴ある取組を紹介する「うちの取組」シリーズを継続し、HPへ掲載。

1 1. 会員増強委員会

- ・委員会、支部・懇話会、部会との連携による会員増強の推進。

1 2. 公益法人対応委員会

- ・公益社団法人認定の推進。

1 3. 75周年記念事業実行委員会

- ・記念事業の準備および遂行。

[3] 特別事業

1. ECOMA（製造業環境・エネルギー対策展）2010

平成22年9月15日（水）～9月17日（金）東京ビッグサイト

2. 夢・化学ー21事業 共同主催

- ・「第42回国際化学オリンピック日本大会」、「全国高校化学グランプリ2010」、「夏休み子供化学実験ショー」等への支援。

[4] 刊行物

1. 会誌

(1) 「化学工学」誌 第74巻No. 1～12号（12冊）

・ページ数：70ページ/号平均

(2) 「化学工学論文集」第36巻No. 1～6

・ページ数：110ページ/号平均

電子版：奇数月発行 6回/年

冊子版：1、3月号、5、7月号、9、11月号を合本として
年3回発行

(3) 英文誌 “JOURNAL OF CHEMICAL ENGINEERING OF JAPAN”

第43巻No. 1～12

・ページ数：100ページ/号平均

電子版：毎月発行 12回/年

冊子版：1～3月号、4～7月号、8～12月号を合本として
年3回発行

2. 不定期刊行物

- ・最近の化学工学 [61]（関東支部編）
- ・化学工学の進歩 [44]（東海支部編）
- ・シンポジウムシリーズ81（粒子・流体プロセス部会）

[5] 支部事業

別紙「平成22年度各支部事業計画」参照

[6] 部会事業

別紙「平成22年度各部会事業計画」参照